

歯は抜けたままにしないで必ず治療を！

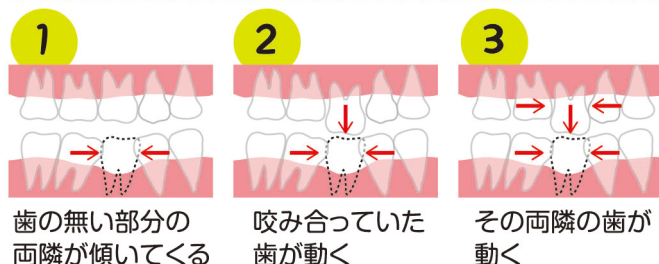
むし歯や歯周病、けがなどで歯を失ったとき、「痛みがなくなったから、このままでも大丈夫」「奥歯だから見えないし、困っていない」と考えて、歯が無いままにしておくと、見た目だけでなく、かみ合わせや残っている歯にも影響が及ぶ可能性があります。

歯には、食べ物をかみ砕くだけでなく、周囲の歯と支え合いながら、かみ合わせを保つ役割があります。歯が抜けて空間ができると、隣の歯が少しずつ傾いたり、移動したりすることがあります。また、抜けた歯とかみ合っていた反対側の歯が、空いた場所に向かって伸びてくることもあります。

こうした変化は急に起こるとは限らず、時間をかけて進むため、ご自身では気づきにくいことがあります。歯の位置やかみ合わせが変わると、後から治療を始め

る際に、治療方法が限られたり、事前に歯並びやかみ合わせを整える処置が必要になったりする場合もあるため、早めに治療を受けましょう。

歯が抜けたままの状態で長い間放置すると、イラストのように周囲の歯が動いてしまい、かみ合わせに影響します。



歯を補う主な治療方法



入れ歯

部分入れ歯は一般的に、金属の留め具を周囲の歯にかけて固定する、取り外し式の装置です。複数の歯を失った場合にも対応しやすい一方、装着時に違和感を覚えることがあります。毎日の清掃と、歯科医院での定期的な調整が必要です。



ブリッジ

失った歯の両隣などを支えにして、連結した人工歯を固定する方法です。固定式のため比較的違和感が少ない一方、支えとなる歯を削る必要があり、その歯に負担がかかる場合があります。



インプラント

顎の骨に人工歯根を埋め込み、その上に人工歯を取り付ける方法です。基本的に隣の歯を削る必要はありませんが、外科手術が必要です。顎の骨や全身の状態によっては適さない場合があります、保険が適用されません。

お口の乾燥、暑さのせい？それともドライマウス？

暑い季節、「なんとなく口の中が乾く」「水を飲んでもすぐ乾く」と感じることはありませんか？汗をたくさんかく夏は、体内の水分が不足しやすく、それに伴って唾液の分泌が減り、口の乾燥を感じる場合があります。

しかし、口の乾燥が続く場合は、単なる暑さや水分不足だけではなく、「ドライマウス」が関係していることもあります。ドライマウスにはさまざまな原因があり、服用している薬の影響やストレス、口呼吸のほか、シェーグレン症候群や糖尿病などの病気が関係する場合もあります。そのため、「夏だから仕方ない」と決めつけないことが大切です。



自分のできるお口の乾燥対策

ご自身でできる対策としては、こまめに水分をとることや、お口まわりを動かすストレッチ、唾液腺のマッサージなどがあります。



水を飲む



お口の体操



唾液腺マッサージ